

2022年12月18日

待降節第四主日

菊地功大司教 メッセージ

「天よ、露をしたたらせ、雲よ、義人を降らせよ。地よ開いて救い主を生み出せ」

イザヤ書45章のこの言葉を入祭唱とする待降節第四主日は、わたしたちがもっとも待ち望んでいること、すなわち救い主の誕生についてやっと直接に触れています。主の降誕を待ち望んでいるわたしたちは、雲が露をこの地上にしたたらせるように、神の恵みがわたしたちを包み込み、そのわたしたちの間から救い主が誕生するのだと言うことを明確にします。すなわち、「神はわれわれとともにおられる」のです。

マタイ福音は、イエス・キリストの誕生の次第を記しています。救い主の母となることを天使に告げられた聖母マリアが、その事実を冷静に受け止め、謙遜のうちにしかし力強く他者を助ける行動をとり続けたように、夫であるヨセフも、天使によって告げられた神の思いを受け止め、それに信頼し、謙遜のうちに行動します。この二人の謙遜さ、勇気、そして神への信頼における行動があったからこそ、救い主の誕生が実現します。天から露のように降り注ぐ神の恵みは、それを受けた人の謙遜さ、勇気、信頼を通じた行動によって、実を結びます。わたしたちは、神が降り注がれている恵みを無駄にしているはいないでしょうか。

この3年近くにおよぶ感染症の暗闇の中で、わたしたちに歩み続ける勇気を与えてくださったのは、神がともにおられるという確信でした。神はご自分が創造されたいのちを見捨てることがない。常にわたしたちとともに歩んでくださる。旅する神の民の真ん中に、御聖体とみ言葉を通じて、主は現存される。なぜならば、神は「インマヌエル」だからです。ともにおられる神だからです。

間もなく降誕祭を迎えます。主がわたしたちと共にいてくださる事実を、降誕祭の喜びのうちに再認識を、主への信頼のうちに、その希望の光を暗闇の中でともに掲げて歩み続けましょう。